

# 平成29年度 大分市教育実践記録

大分市立城南小学校

高橋 京子

# 「授業で子どもを育てる」校内研究をめざして

～全員で、全教室で、全校児童を～

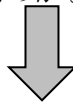
## I はじめに

「子どもは授業で育つ。子どもを授業で育てる。」これは、私が、日々の教育活動で大切にしていることである。私は、これまでの教育実践に於いて幾度となく、授業で子どもが変わる瞬間、授業だからこその子どもも段階的に確実に成長していく姿を目の当たりにしてきた。子どもがそのように成長するときは、子どもたちが真剣に考え、対話をし、みんなで解を発見するという学び合う楽しさを実感しているときであった。教師側から言えば、「子どもを育てる」という明確な意思を持ち、具体的なねらいとめざす子ども像を定め、そのための手立てを考えて授業に臨み、子どもに学びを自覚させられたときであった。

学校教育目標を実現するためには、全教職員で全校児童を育てていかなければならない。その力を段階的に確実に育てられる場合は、やはり「授業」である。全教員が、めざす子ども像とそのために育むべき力を共有し、「子どもを育てる」という明確な意思をもって行う授業である。そして、その授業が、全教室で行われることで全校児童が育っていく。

私は、今、研究主任という立場を頂いている。研究主任の役割について考えたとき、それは、全校児童が授業を通して段階的に確実に成長できるよう、次の3つを実現することであると捉えた。

- ・学校のめざす子ども像を、具体的に全教職員で共有できるようにすること。
- ・身に付けるべき力を具体化し、子どもたちが実感を伴ってその力を獲得していける授業(=子どもが育つ授業)とはどんなものかを、全教員で追究し明らかにしていけるようにすること。



そして

- ・その授業を、全員で、全教室で、日常的・系統的に行えるようにすること。

以上の3つを実現し、全員で、全教室で、全校児童を育てていけるよう、校内研究の推進に取り組むこととした。

## II 取組内容・取組方法

(1)校内研究の意義の共有

(2)研究内容の共通理解 ～めざす子ども像・研究主題・研究仮説・研究方法～

(3)めざす授業像の具体化と共有 ～提案授業研を通して～

(4)めざす授業像の具体化と共有 ～理論研究会・先進校の取組紹介を通して～

(5) 伝え合いの土台づくり ～はなまるタイム「話す・対話・聞く」「書く・描く」～

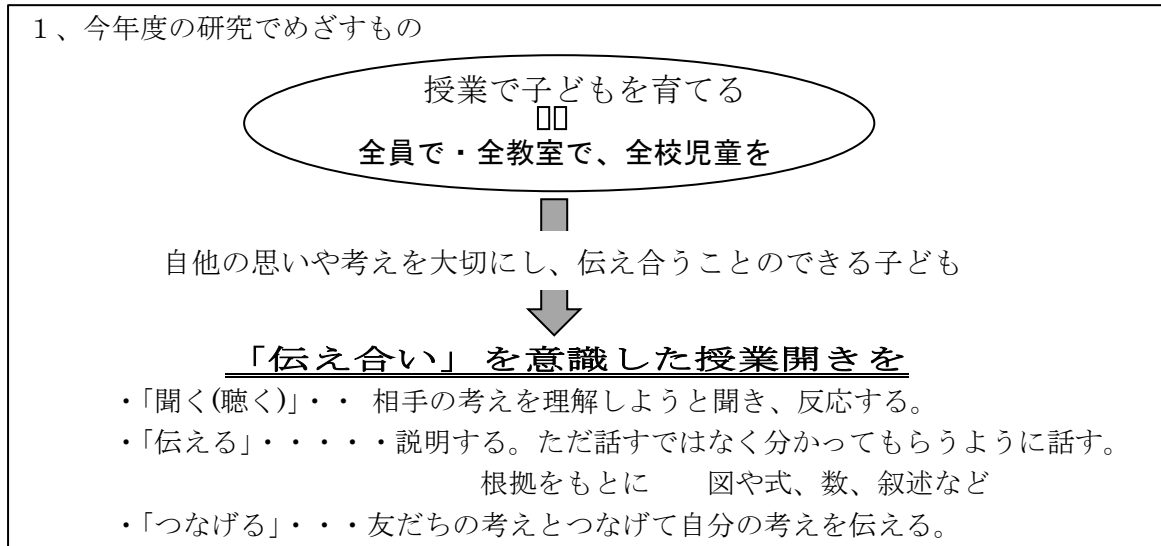
(6)自分のクラスで実践・検証し全体へ

### Ⅲ 取組の実際

#### (1) 校内研究の意義の共有

始業式前の4月6日第1回校内研で、校内研究の意義を「今年度の研究でめざすもの」として全教職員で確認した。めざす子ども像を共有し、伝え合いを意識した授業開きを全教室で行えるようにするためである。

〈第1回校内研資料より〉



#### (2) 研究内容の共通理解 ～めざす子ども像・研究主題・研究仮説・研究方法～

校内研究と子どもの成長とのつながりや、新学習指導要領・基礎学力向上研究との関連が捉えられるように共通理解を図った。

資料①P1

##### 1 研究主題

自他の思いや考えを大切にし、伝え合うことのできる子どもの育成  
～算数的活動におけるかく活動の工夫を通して～

##### 2 研究仮説

問題解決の方法を考え合う算数的活動において、説明することを意識した自分の考えのかかせ方を工夫すれば、自他の思いや考えを大切にし、意欲的に伝え合う子どもが育つであろう。

##### 3 めざす子ども像 自他の思いや考えを大切にし、意欲的に伝え合う子ども

	《聞く姿》	《伝える姿》
低	友だちの話を反応しながら最後まで聞く子	自分の思いや考えを、言葉や式、図などを使って伝える子
中	自分と友だちの考えの共通点や相違点を見つけながら聞く子	自分の思いや考えを、相手に分かるように言葉や式、図などを使って伝える子
高	自分と友だちの考えの共通点や相違点に気づき、良さを見つけながら聞く子	自分の思いや考えを、相手に分かるように伝えるよりよい言葉や式、図などを考えて伝える子

#### 4 主題設定の理由概要 資料② P 1

#### 5 研究内容

(1)算数科の授業実践を通して ～伝え合う意欲や必要性とその内容を持たせるための手立て～

説明することを意識した自分の考えのかかせ方の工夫

- ①説明する意識をどう持たせるか。
- ②伝え合いに活かすために、何を、どのようにかかせるか。
- ③かかせたものを伝え合いにどう活用するか。

(2)伝え合いの土台づくりを通して

- 「話す・聞く・対話・書く」などの基礎・基本を身に付けさせるための「はなまるタイム」

#### 6 算数科学習過程 資料③ P 2

算数科の資質・能力を育成するための学習過程

～「分かる・できる授業」から「なるほど！すばらしい！感動のある全員参加の授業」へ～

**(3)めざす授業像の具体化と共有**      **～提案授業研を通して～**

提案授業研での仮説検証を通して、めざす授業像＝算数科学習過程とその実現のための手立てを具体的に共通理解していった。そのため、提案授業研のまとめでは、授業記録を基に子どもの姿からその要因を分析し、具体的にどこがどう課題なのか、どう改善すれば良いのかが分かるようにした。

研究内容①「説明する意識をどう持たせるか」に関わる「課題を見出す」過程を例に、その実際を述べる。

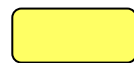
**①説明する意識をどう持たせるか。**

説明する意識を持たせるには、子ども自身がみんなで考えを出し合い解決したいと思う「課題」を設定することと、学び合おうとする学習集団づくりが必要であることを、以下のような段階を踏み共通理解を深めていった。

**【課題の生み出し・課題の共有の仕方】**

〈算数科学習過程 5月版〉

過程	学習活動	支援・手立て
とらえる	<b>問題を数理的に捉え、問い・疑問に気づく。</b> 既習とのずれ、感覚とのずれ 友だちとのずれ、予想とのずれ	○未知のものに出会わせ、問題解決の場に立たせる。 ・考えたくなる問題。考える必要性のある問題。 ・ねらいにかかわるずれがおきる問題。 ・数学的な見方や考え方の良さが実感できる問題。
課題を見出す	<b>見通しを立てる。</b> 答えや解決方法  <b>課題を設定する。</b> 問い・疑問＋見通し＝課題  ＜中心課題＞      ねらいに関わる考えのずれがおきるもの。	○子どもと共に課題を設定する 子どもから問いを引き出す。 ↓ 問いを価値付け、全員に共有させる。 ↓ 課題として位置付ける。



共通理解したこと

《提案授業Ⅰでの成果と課題》      6月23日(水)      5年「 $96 \div 1.6$ の計算の仕方を考えよう」

【課題の生み出し・課題の共有】	【学び合う学習集団づくり】
○「分からない」を出させ子どもと共に課題設定→課題の共有化→追究意欲・伝え合う必要性。 <b>子どもと共に課題設定</b>	○みんなで解決しようという学習集団に育てている。(日頃の取組) <b>日頃の取組の大切さ</b>
▲多くの人が困っていたが一人にしか困りを言わせなかった。より多くの子どもの困りをつぶやかせることで、困りを価値づけどの子どもにも課題意識を持たせる。 <b>困りの共有・つぶやかせる</b>	▲伝え合うことは、「解決してあげるため」ではなく、「自分の学びを深めるため」という意識を育てていく教師の言葉かけ。 <b>伝え合うことの意義を子どもに意識させる</b>

<子どもと共に課題を設定するまでの流れを、授業での教師の言葉かけを基に共通理解>

○成果 ▲課題 □改善策

<p>困りの確認 共有</p> <p>↓</p>	<p>○「なんかうまくいかずもやもやしてるなあ。とか、何かうまく言ってないんだよなあ。とかいうのがあるよっていう人?」「何に困ってるの?」 <u>困りを言いやすい雰囲気を作っている。</u></p> <p>○「○○さんの気持ち分かる?」<u>友だちの思いや考え方に関わらせている。</u></p> <p>▲多くの人困っていたが一人しか困りを言わせなかった。</p> <p>□もう少し多くの人に困りを言わせると子どもから焦点化した課題を生むことができる。<u>困りを子どもにたくさんつぶやかせる。</u></p>
<p>みんなで解決する意識 説明する必要性</p> <p>↓</p>	<p>○「どうしようか。どうやったら解決できる?」 <u>解決の方法を子どもに問うている。</u></p> <p>▲「どうやって解決してあげる?」「教えてください。」等は、教える人、教えられる人という関係をつくる恐れがある。</p> <p>□<u>伝え合うことで自分の学びも深まるという意識を育てていく。</u></p> <p>↓</p> <p>「みんなで考えを出し合って考えればいい!」<u>子どもに言わせている。</u></p> <p>↓</p> <p>「みんなの力で解決しよう。」「みんなで伝え合って解決しよう。」 <u>みんなで学習する目的・意義を押さえている。</u></p>
<p>子どもと共に 課題を設定</p>	<p>「今日は、みんなで何を解決したい?」<u>子どもに課題を考えさせている。</u></p>

子どもの姿を通して共通理解

<授業分析により、子どもの様子からその要因・成果・課題・改善策を具体的に共通理解>

資料④ P 3



提案授業①で明らかとなった手立てを組み入れ改めて共通理解

課題を見出す	<p><b>見通しを立てる。</b> 答えや解決方法</p> <p><b>課題を設定する。</b> 問い・疑問+見通し=課題</p>	<p>○子どもと共に課題を設定する 子どもから問いを引き出す。 「わからない・困り」を出させる</p> <p>↓</p> <p>問いを価値付け、全員に共有させる。</p> <p>↓</p> <p>課題として位置付ける。</p>
<p>&lt;中心課題&gt; <u>ねらいに関わる考えのずれがおきるもの。</u></p>		

《提案授業②の成果と課題》 10月18日(水) 3年「 $1/5 + 2/5$ はどう考えたらいいのかな」

【課題の生み出し・課題の共有】	【学び合う学習集団づくり】
<p>▲問題場面の把握が十分にできていなかった。 既習事項との違いを明確に。</p> <p>▲【困りの共有】 困りを出させていない。 困りを出させるチャンスが、2回はあった。</p> <p>▲【課題の見出し】 課題を教師から与えていて、子どもと共に課題設定していないため、初めから<math>3/5</math>と思っている子には「どうやって考えれば良いか」という課題を十分に共有させられなかった。</p>	<p>○子どもに、説明→質問→返答の一連の流れを任せ、教師の発言が少なかった。自分たちで伝え合う意識を持たせられた。日頃の取組</p> <p>▲伝え合いの前の言葉かけが「困りを解決してあげよう。」になっており、伝え合いのねらいが、「全員の学びのため」ではなく、「解決してあげる」「解決してもらおう」ということになってしまっていた。</p>

\*授業分析 資料⑤P4

子どもの姿を通して共通理解

《提案授業③の成果と課題》 11月29日(水) 2年「九九を使って工夫して求めよう」

【課題の生み出し・課題の共有】	【学び合う学習集団づくり】
<p>▲自力解決に於いて、本時のねらいである新しい作戦に気づく子が少なかった。=本時の並び方の特徴(既習との違い)の捉えさせ方が不十分であった。欠けている部分や全体の箱の枠に着目させることが十分にできなかった。本時のねらいに関わる考えのずれがおきる課題を生み出すための問題提示や見通しの持たせ方の工夫が必要。</p>	<p>○説明する力がよく身に付いている。相手意識をしっかりともって説明していた。二人の間にワークシート。指さしや色分けなどで相手に分かるように工夫している。学年・学校全体での積み上げの成果。日頃の取組</p> <p>▲自分の考えを伝え合って終わっていて一往復半の伝え合いができていないペアが多かった。</p> <p>○説明→質問→答える「そこがまだわからない」といえる有効なペアトークができていたペアがあった。</p>

\*授業分析 資料⑥P5

子どもの姿を通して共通理解

研究内容②③についても同様に、提案授業研を通して少しずつ共通理解を深めていった。

#### (4)めざす授業像の具体化と共有 ～先進校の取組紹介・理論研修を通して～

##### 【先進校のDVD視聴】

研修日	DVD	視聴の目的・共通理解したこと
4/19 (水)	筑波大学附属小 田中博史先生 5年「 $200 \div 0.5$ でいいの？」 ～小数のわり算～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考える授業の楽しさを教師が体感する。</li> <li>・1つの考えに全員が関わり理解していく授業</li> <li>・全員が思考し理解するためのペア対話 さまざまなねらい・タイミング、回数</li> <li>・説明活動のさせ方 他者説明、リレー説明、図を使つての説明</li> <li>・子どもの考えの引き出し方、つなぎ方、板書</li> </ul>
5/10 (水)	同上 2年「九九を超えるかけ算」 ～ $16 \times 3$ の式の変身～	
8/1 (火)	NHK 佐藤学先生の解説 「輝け二十八の瞳」 ～学び合い・支え合う教室～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いを楽しむ子どもの姿</li> <li>・学び合いの有効性・学び合いで大切なこと</li> <li>*学び合い全てを本校の授業に取り入れることはしないが、みんなで解を発見する楽しさを味わう子どもたちの姿は、是非本校の授業でもつくりたい姿であることを確認し合った。</li> </ul>

##### 【先進校の研究会報告】

筑波大附属小、久留米附属小、鳴門教育大附属小 など

##### 【理論研修会】

8/1(火) 伝え合いにつながるために何をかかせるか・どんな説明をさせるか  
～何が説明されると納得するか体験してみよう！～

資料⑦P6

「答え」「計算や根拠」だけでは納得はできず、「考え方」を聞きたくなる。「考え方」を理解することで初めて本当の納得が得られることを教師も味わえた。

#### (5)伝え合いの土台づくり ～はなまるタイム～

月曜日＝話す・対話・説明・聞く 金曜日＝書く・描く

伝え合いに必要な力を、楽しく系統的に身に付けさせることができている。今年度は、説明する力も取り入れて実施している。



質問連鎖ゲーム



めざましグループ対話



めざせ！説明名人



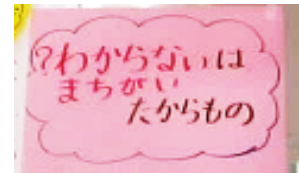
## (6)自分のクラスで実践・検証し全体へ

### ○「伝え合い学び合う楽しさ」を味わえる子どもたちへ

私は、2年生の担任をしている。4月に出会った子どもたちは、当初、積極的に話す子が少なかった。そこで私は、「伝え合い考え合う学習の楽しさを味わわせたい」「自分から伝えようとする子どもたちに育てていこう」という思いを強く持ち、授業開きから段階的に、伝え合い学び合う楽しさを実感できるように授業を行うことにした。そして、その取組の様子を校内研で伝え、校内研究の取組の方向を具体的に共有できるようにしていった。

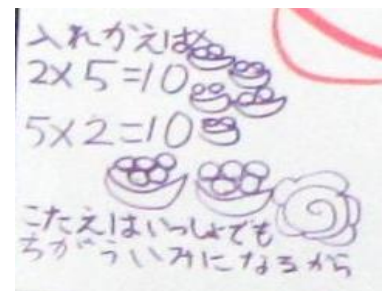
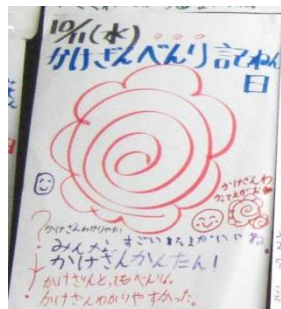
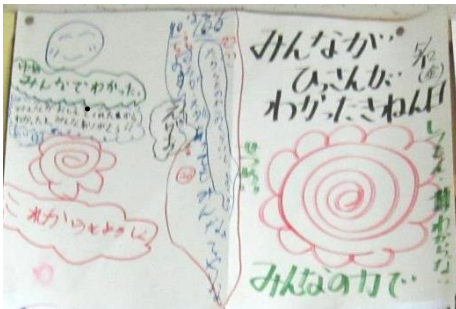
### ○算数「わからない」「まちがい」「どういうこと？」は宝物。みんなで考えるって楽しい！

1人の子の「よくわからない」「どういうこと？」の声から、みんなで真剣に説明し合い考え合う学習が始まった。いろんな子が、図を描いたり計算で説明したりと、全員がわかるために考えを伝え合いみんなで納得することができた。授業の最後に、考えを出し合い分かったことをみんなで喜び合うと共に、これからも、みんなで考えを出し合っていこうというクラスの大きな目標をもつことができた。伝え合うことの楽しさを感じ始めた子どもたちであった。



### ○算数記念日 学びの自覚 資料⑧P7

みんなで考えをたくさん出し合った授業の後、一人の子が「先生！今日、算数記念日できたよ！」と叫んだ。「何記念日かな？」と問い返すと、「みんなが筆算がわかった記念日！」とうれしそうな声が返ってきた。他の子も「そうだよ。みんながわかった記念日だ」と賛同。その日以来、授業で本当に学び合った・分かったという実感があつた時には、子どもたちから記念日が作られていった。記念日は、子どもから声が上がった時だけ作ることにし、「今日は記念日だ！」という声に必ず「何記念日かな？」と問い返すようにしている。すると子どもたちは、その日の学習で本当に納得して分かったことやみんなで考えて分かった喜び、友だちの説明の上手なところ、感謝などを口にする。記念日には、子どもたちが本時で深く学んだことが表れており、伝え合い・学び合う楽しさを自覚する場にもなっている。今、教室には、2学期末までにできた40個の記念日が並んでいる。



- 質問をすると友だちの考えがよくわかる！
- 分かりやすく説明できる言葉を見つけたよ！
- 分かりやすく説明できるノートが書けたよ！
- 考えを図を使って分かりやすく説明できたよ！



### ○ふり返りで学びの自覚

ふり返りでは、友だちと伝え合って考える楽しさを実感していることや本時で深い理解ができたことを書く子が多い。ふり返りをクラス全体に広めることで、みんなで学ぶ楽しさや分かる楽しさをクラス全体で共有していった。

このように、子どもたちは毎時間の授業を通して伝え合うための力を少しずつ身に付け、学び合う楽しさを味わっていった。そして、今、友だちの考えを聞くことを楽しみにしたり、自分の考えを意欲的に伝えたりする学び合うクラスになってきている。



以上のようなクラスでの取組の様子と共に子どものふり返りを校内研で紹介することで、次のようなことを共通理解した。

### 資料⑨ P 8

- ・「わからないが言える」「わからないところがわかる」ことの大切さ
- ・1時間の子どもの学び 分からない から 分かってうれしい へ
- ・自分なりの課題をもって学ぶ
- ・考え方を学ぶ
- ・自分の言葉でまとめ
- ・「できるかな」「使えるかな」等の学びの活用を意識した確かめ問題の取組方
- ・ふり返りの学びの自覚とその有効性
  - ・伝え合い学び合う楽しさ

## IV 取組の成果と課題

校内研で取り組んだことの力が  
伸びている。

### (1) 子どもの変容

#### ① 子ども自身が捉えた変容 ～算数学習アンケートより～

グラフ資料⑩P12 考察詳細P16

- ・「算数の授業の楽しさ」「考えを書く」「ペアやグループに話す」「全体の前で話す」「図や言葉を使って説明する」は伸びており、「できない」が減っている。中でも、「考えを書く」「説明する」の伸びは特に大きかった。
- ・「つないで話す」は「できない」が増えているが、つないで話すことの難しさを子どもが実感できているということは、つないで話すことを求める授業が全校で行われたことでの表れであり成果と言える。
- ・「考えをかくこと」が、「説明できる」につながってきている。昨年度より両者の差が縮まっていることから、「考えを書く」ことが「説明活動」に活きてきていることが分かる。説明を意識することで、今まで以上に思考して自分の考えを書くようになったと考えられる。それにより説明する内容をもつことができ、どの子ども説明ができるようになったと思われる。

#### ② 教師から見た変容 ～校内研アンケートより～

子どもの変容が日頃の授業でしっ  
かりと表れている。

- ・意欲的に伝え合う子どもが増えて来た。
- ・自分の考えに自信を持って発言できる子どもが増えた。
- ・自分の考えを相手にわかるように言葉や図で説明しようとする力が前より伸びた。
- ・相手の説明を聞いて考えようとする姿が増えた。
- ・友だちの考えの良い所を見つけたり、分かってもらう気持ちが見えるようになったりした。
- ・少し難しい課題にも取り組みたいという意欲が見られた。

### (2) 校内研を生かして日頃の授業で取り組んだこと ～校内研アンケートより～

- ・課題や課題の生み出し方（子どもと共に設定）を意識するようになった
- ・考えを書かせること、説明させることに取り組んだ
- ・伝え合い(ペア・グループ)をいろんな場で意識的に取り入れた。
- ・専科や特別支援学級など、全教室で伝え合いの場を設定した。
- ・考える楽しさを子どもたちが少し経験できた。

同じ目標に向かって全員で、全教室で、全校児童を授業で育てることができてきている

今年度の研究で取り組んだ手立てについては、提案授業研や理論研究会等を通して具体的に共通理解できたことで、同じ目標に向かって、「全員で、全教室で、全校児童を授業で育てる」ことができてきている。「比べながら聞く」「つないで話す」は来年度につなぐ課題である。

## V おわりに

全員で、全教室で取り組むことの意義を改めて実感した。全員で共通理解しながら取り組むには、子どもの姿を通して1つ1つの手立てについて議論が必要であり、今年度のどの取り組みも欠かすことのできないものであった。来年度は、より子どもたちが育つ授業を、全員で、全教室で実現できるようにしていきたい。